

# 月刊サカタニ友の会ニュース

## とんからりん

### 第9回: 11/11日

## 駅伝ライブ

主催 駅伝ライブ実行委員会

雨の11月11日(日)12時「第9回: 駅伝ライブ」がスタートしました。「駅伝ライブ」第1回はスリマトラ沖地震・津波被災者支援のため2005年4月3日(日)にご協力の皆様へ厚くお礼を申し上げます。

また、ご参加数は、雨の影響もあり昨年より少なく約五百人をやや越え方々が来て下さった。2012・11月吉日  
共催者: 株式会社サカタニ  
当日の写真、奇数はギャラリーは無料での協力を得ながらのカフェ。偶数は楽々ホール使用



池田東小学校インガキッズ



LATINA: 吉村佳容: 横智花



京都女子大: 落語研究会



みずすまし



ひょうたん島



澤田好宏&大坂城ジャグ



京都女子大ダンスクラブ



北村サユリ&森本昌彦



J-MAC'65 GS&J-POP



fulare\_pad



スムウキー&後藤コータロー



沖縄音楽のなあ

### 店外の観衆



### 店頭ライブ



### フィナーレ



無事終了;有難うございました。

### 第96回: 朝粥食べておシャベリ会 報告

定例: 11月18日 第3日曜日  
お話し: 「音楽療法について」  
& 「ミニライブ」  
講師・奏者: 佐渡文彦先生  
1969年生れ、信州大学医学部卒・現在、山科区四ノ宮で、耳鼻咽喉科専門医院をなさりながら、各種の弦楽器奏者としても活躍中のお方です。  
当日は朝粥を食べる前40分間: 専門の分野のお話をいただき、引き続き、cello(チェロ)で二数曲、violin(バイオリン)で一曲、guitar(ギター)弾き語りで二曲演奏されご自作の(みみ・はな・のど、鼻血の止め方)歌を教えてくださいました。



### どんつき

1日多  
い閏年の

12月。もうと感じる人も有り、ヤットと思う人もある。概ね幸せな人は「もう」でしょう。鴨長明が25年(建暦2)に記した方丈記から800年。今年にはよく話題になる。その頃と同じように時は流れている。当時も今も1日は24時間だが、もし長明が今の世界に来たとすれば早すぎて目を回すのではなかるうか。  
逆に現代人がその時代に行けばどうなるだろうか。ヒョットしたら、今よりモット豊かな人間になるかも知れません。何時ごろからジングルベルが喧しくて聞こえなくなりましたが、もういくつ寝るとお正月 がありました。

元旦は特別の朝。静かで清らかな日。家族が揃って新年の挨拶を交わしお雑煮を祝う。自業自得でもう27年前で終了。敗戦前後の物資不足の時代でも日本の多くの家々であった風習は、祝日と神社参りを残し何時の間にか消えました。日本だけでなく世界中が経済は豊かになりながら、諸々の原因で争いが増えています。欲張ってお腹を膨らませ続けるとイソップ物語のカエルのように破裂するかもと心配や。



# ヨシイちゃんの ひとりごと



## 選挙前やから 言ったんねん

今、解散したから、民

主党議員が減る」と判っていて野田さんは「天下宝刀」の解散権で国会が解散しました。どうキバツても来年で任期満了。宝の持ち腐れはモッタイナイからでしょうか？

貧富の差が広がって、超金持ち貧乏人の間の中間層が激減。私どもの商売はお客様の懐具合が直ぐ判る。16日から万札が増える、年金支給で、20日ごろから5千円札

というパターンだった。ところが近頃は硬貨が多くなった。消費税が導入された時、円玉不足で困った。今は多くて困る。

多くなって困る事がもう一つ増えた。政党だ。地方の選挙で選ばれた「首長」が議員を目指して辞職したり、政党をつくる。通常なら「契約違反」で訴えられる行為でしょう。

先日、私がフェイスブックで目下話題の中心である「H氏」の原発に関する発言の変化を、千日前辺りに昔多くいた「叩き売り」と似てるか書いてお叱りを受けた。本当はそのお方の歩み方がとやかくたかったが、それは余りにも主観的だと思って、「原発」にした。

私は商売人の子。爺さんから「倒されても良いが倒したらアカン」と、信用の大切さを教えられた。

父の代、私が19歳の時、諸々で破産寸前、以後も幾度か危機を経験した。私も商売方法を数回変更した。コンビニに代えた時「友の会」をつくり迷惑をかけないよに心がけた。仕入先も余程の事がない限り自分からは切らない。それが信用だと思っている。

「会社」も「公」と思っている。「店の商品」もお客様と同じ値段で買っ。それが商人としての節度だ。(私がチョット変のかな)

そんな私は、選挙で選ばれた人特にならなくて立候補し当選した人が、その任期中に辞める事は「契約違反」だ、前職を踏み台にして「上」を目指す方法も「はつてエエのは提燈屋、はつて悪いは親父の頭」と上手い事言っ「物を売る」叩き売り屋と似てるので

はと書いた。維新は買わずに、当店の龍馬も呑んだという「船中八策」をおススメします。

来年は七条大橋竣工百年。お祝して上げたいものです。



1913年の七条大橋



### 「ご投稿

## 石動敬子

### 百年のモダン大橋

#### 秋高し

#### 柳散る黙ってをれば

#### 後回し

通りすがりの写真展のキャッチコピー「ありきたりの...小さな奇跡」にひきつけられて立ちよったのが小さくない出会いの初めとなりました。二十年以上前に「石垣りんを偲ぶ」催して来るはずだった?とコピーを頂きながら「とんからりん」を斜め読みするうちにすっかりサカタニワールドに入っていきました。その日の

うちに友の会にも入り新酒試飲のイベントにかけつけました。さらには遠朝の朝粥の会でカキナーレ先生にも再会。

七条通をあるく吟行の途中の小さな奇跡でした。立ち寄ったことでの二句が出来たのです。「とんからりん」のお陰でした。三十二年近く北大路橋のに住み七条大橋のことは眼中になかったのに。

モダン橋のモダンとは故郷丸森(宮城豊南)の丸森橋(昭和4年)がモダン橋とよばれていたっけと拝借。塩小路の句会場でこの二句は認められ、近く上梓する第二句集『逢隈(あぶくま)』にも入る予定です。

母なる阿武隈川が放射能で汚染され、母もこの夏逝きました。お礼「ご投稿有難うございます。先ずお母上様のご冥福をお祈りします。ポスターと「とんからりん」のご縁でこの文を頂戴に「黙っていると何時も順番後回し」を借用しましたとお聞きしました。何のことかと思ひ当たらず聞き直しもしませんでした。10月号で七条と北大路の橋比較で使った文です。感性の悪い京都市などには通じなかった文ですが、今は嬉しいです。

## お金の要らない 長い生き方

### 足の裏を揉む

頭の悪い人を称して「血の巡りが悪い」と良く言われています。

脳が働くには大量のブドウ糖と酸素が要りますが、それを運んでくるのが「血流」です。脳梗塞や心筋梗塞の原因になる「血栓」も血流が良く、且つ収縮と弛緩のよい人には起こりません。

脳だけでなく筋肉も毛細血管で覆われています。肩が凝ったり、足がつかたりすると、そこを揉むと楽になります。揉むことで、血流が良くなるからです。

今はそれに「棒踏み」を加えました。棒でなくても野球がゴルフボールでも良いでしょう。足の裏は心臓からモットも遠く血流が悪くなり易い場所。そこをマッサージするために



上の写真のところ「じば」です。そこを中心に、足踏み、更には前後に入りつけるだけ。

世間では老人を粗末にする傾向があります。負けずに、んーと長生きしてやりましょ。負けるもんか!

# 京都&東山 ぶらりピカリ

37

## 八坂神社

おけらまいり 京都で生まれ育つて八十年近くなるが「おけらまいり」白朮詣」と書くとは今まで知らなかった。また、おけら参りで、白朮火を、吉兆繩に移して、消えないようにクルクル回して家に持ち帰って、その神火で、おくとさん(かまど)の火をおこして、お雑煮やお料理を作って一年間の無病息災を祈るといいますが、我が家では一度もしていない。酒屋「コンビ」という商売柄、忙しくて行けない状態でしたから。

## 白朮詣

「をけら」は漢字で書く「朮」と「朮」。をけら」はキク科の多年生植物で、漢方薬にも使われ、一年の邪気を取り払うと言われ、お正月のお屠蘇(とそ)の原料の一つです。



この行事も「祇園祭」も元は八坂神社の氏子の行事でしたが、今や京都全体の祭り化しました。観光が市民産業の大きな財産で、大切にしたいものです。

おけらまいりには白朮祭から始まります。古式にのっとり



火きり白と火きり杵できりだされた御神火は大晦日の午後七時、除夜祭齋行ののち、宮司以下参員によつて、境内に吊された灯籠にももされ、人ひとの願いを記した「をけら木」ともに、夜を徹して(大晦日6:30頃)元旦早朝まで焚かれます。鬼が笑いますが、序に八坂神社の年末年初行事を書きます。神社HP参考

「をけら酒」授与薬草として珍重される「をけら」を調整した「をけら酒お屠蘇の一種」をふるまいます。一年の幸いを祈りながらお受け下さい。(大晦日・午後7時~元旦・午前時頃)

「粥杖」授与 1,000円  
産土宝印の守札を、桃の小枝に挟んだもの。桃には古来より、邪気を祓う力があるとされてきました。(お正月限定品です。)



園さんは人で溢れます。気を付けてお参りください。お酒は集西楽サカタニで

# 市電が走った 京都を巡る

福田静二

## 西陣京極

千本中立売 立売を出した北行きの市電は、動き始めたかと思うと、もうブレーキを掛けます。つぎの停留所「西陣京極」に到着です。この間、わずか三百メートル、京都市電の中でも、停留所間隔の短さでは有数のものです。

停留所の起源となつた西陣京極は、千本通の東側、中立売通から一条通までの間に囲まれた繁華街の通称で、なかでも現在も「西陣京極」のアーチが千本通に面して掲げられている細い路地がその中心でした。

停留所は、大正元年の開業時は「西陣北野天神筋」の名でした。東西に交差する一条通は、北野天満宮への道筋であることから名付けられたのでしよう。その後、停留所は休止されますが、昭和二十九年に「西陣京極」の名で復活を果たします。ちょうど、その頃、繁華街として隆盛していた時代であり、下車客の便宜を図って復活したのと思われれます。

京極と聞けば、四条から三条まで、河原町通に並行する繁華街「新京極」をまず思い浮かべますが、京都には、西陣京極のほか、松原京極、山科京極など、京極の名を冠する商店街があります。日本各地に「銀座」があるように、京都では繁華街の代名詞として語られています。

この付近の繁華街の由来については、前回の千本中立売でも記したとおりですが、日本有数の織物業地、西陣を控え、とくに戦後になると未曾有の糸ヘン景気が到来し、近隣には織物業に従事する職人が多く集まります。その人たちがを相手にする、歓楽街・商店街として発展していきます。

もともと、付近には、芝居小屋がいくつか存在し歓楽街としての素地がありました。それが、昭和初期に到来した映画ブームに乗って映画館に衣替えし、細い路地には、西陣キネマ、長久座、千中劇場、西陣大映、西陣東映と五つの映画館ができて、昭和三十年代後半の最盛期には二十軒近くが、千本通近辺に集中し、多くの人で賑わっていました。

昭和四十七年の市電廃止以後は、代替バスは千本中立売から千本今出川まで無停車で、「西陣京極」のバス停はなくなりました。通常、小まめに停車できるバスのほうが停留所が多いのに、ここは逆のケースです。この時期から繁華街の衰退が始まったとも見えます。

今では、人の目に触れる「西陣京極」の名は、先述の千本通に面したアーチぐらいいなくなりました。映画館はすべて閉館し、数軒の飲み屋と一軒の銭湯が営業しているだけで、人通りも少なくなっています。

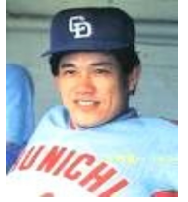


にぎやかだった西陣京極付近



酒販ビジネス実践会中より引用

「酒屋が知らない！酒雑学」



元中口、谷沢健一氏の奇跡の復活劇

【元中口】ゴングズの一塁手で今は野球解説者の谷沢健一氏は現役時代、持病のアキレス腱が悪化し、一軍落ちします。有効な治療法がなく、選手生活も危ぶまれたとき、彼は日本酒マッサージに出会います。これは、患部に日本酒を塗ってマッサージをする手法と風呂に日本酒を入れる酒風呂での治療によって奇跡の復活を成し遂げたのです。

この日本酒マッサージの発案者である小山田秀雄氏は医者でもあり、元西鉄ライオンズの稲尾和久投手の肩も日本酒マッサージで治したとのこと。谷沢氏はこの小山田氏のもとで日本酒マッサージの治療を受け、みごと完治し、一軍への復帰を果たしたのです。後日談として谷沢氏はこの日本酒風呂に入った奥さんや娘さんも肌がスベスベになった！と、あるTV番組で語っていました。また、最初に小山田氏から日本酒マッサージのことを聞いても「そんなの迷信だ」とまったく信用しなかったそうで、小山田氏に熱心

に説得されてようやく実施する気になったそうです。その後谷沢氏の娘さんは父親の影響から現在では酒マッサージ師として全国で活躍されているそうです【引用終了】

前に「とんからりん」に書きましたが、私は毎朝「酒粕入りのお粥」を食べます。高血圧と血糖値がお医者さんがビックリの変化。お粥は自分でつくりますから、酒粕を指先で碎きます。78歳の頭でなく指先はツルツルです。他に階段で足をくじいてしまい、激痛で歩けない状況が、酒粕を患部に当てて何帯を巻いていたところ、数日で完治した美話も有ります。

友の会会員Sさんの遺言三句  
洗いたる髪も清しく初々し  
妻を今宵は深く愛しぬ

喜びて見ら飛はせる手作の  
凧はゆたゆた大層根越えり

悲しみや苦しむ事は秘の持たす  
忘れよと聞く除夜の鐘

友の会発足以来のS会員の様子の  
「遺言」をお祈り申し上げます

酒屋で生きて  
生かされて

連載中のこの欄で話ものが幾つかありましたので、点検のため、今月12月号と元月号は掲載いたしません。ご了承を編集者

身体にやさしい  
お燗酒



酒屋の発行人のニコミでありながら余りお酒を話題にしませんでした。大分寒くなってきたら余りお酒を話題にしませんでした。昔は、技術的な精米機でありませんから精米歩合も低いために出来あがった酒は酸味が強く温めることでより美味しくとの知恵でしようか？。酒が高価でしたから、良水で割って（増やして）飲んだのかもしれない。現在の酒（日本酒）の価格は安くなっていますが、級別があつた時代は散髪代と「B」の酒が同等でした。酒の税金が国家財政の主要な部分にするため、酒税法が酒蔵がつくった量で課税する「造石高税」から、酒蔵から出荷した量で課税する「蔵出し税」に変わりました。池田、竹下、宇野総理も酒造家です、酒組合も自民党に政治献金をつけて来ました。世の中、消費税が主役、酒税は端役になると、酒屋は切り捨てられ悲惨な業界になりました。農林省と米屋さんも似た形。酒屋さんと米屋さんの「おかん」は、『働けど働けどわが稼ぎ増えず、ジーと細君に睨まれる』の姿なのです。お燗が「おカン」になり洒落にもならず終ります。

まず酒を温めて飲むようになつたのは奈良時代からで、平安時代には貴族社会で始まり、江戸中期になって民衆に広がったといわれています。お燗は、旧暦の9月9日（重陽の節・今の10月5日）から3月3日（桃の節句）までだったようです。その頃には、新酒が出来ますのでフレッシュな味を楽しんだのでしよう。今は、醸造技術が向上しましたが、戦後暫くは粕香が強くて、酒屋の間では、新酒は安く古酒は高く取引されておりました。新と古を合わせ手「合い酒」が出回りました。焼酎も連続蒸留でアルコールをつくり、それを水で薄める「甲類」「ホワイトリカー」より、酒粕を簡単な蒸留設備でアルコールを抽出した「粕取焼酎」が多く出回りました。

編集後記

11月は「駅伝ライブ」や「楽々落語会」の大きなイベントあり、おまけに「一口小倉」と「とんからりん」もギリギリになった。その上、オッチョコチョイで新しいものに挑戦する悪い癖でフェースブック（FB）に飛びついた。また手探りでいるが。

その状態のなかで「友達」が30人を越えた。お早くと挨拶されたら、「お早つとございます」の返礼は常識、手間は増えた。FBは「友の会会員の皆さん」と同様で相手の本名や誕生日がわかる。そして両者が同意しないと「友達」にはなれない。友達は夫婦や親子と違ってどちらかが気に入らないと一方的に離れることが出来る。FBも同様でもお互いを認め合ふは切れない。今号は59単純に12で割っても13年3ヶ月、当初は2ヶ月毎だったので16年以上続けた事になる。歳が暮なり過ぎたのでそろそろか。世の中も変たし、消費税、電気も上がる。本年度は何とか黒字だ。来年は判らない。特に電気代は王口に堪えるだろう。始末に始末を重ねて私たちが頑張つて納めた税金、ジャブジャブ使ったのは何処のどいつや！。責任者出て来い！。アツまた、人生幸福を使ってしまったシャーン。

次号に続く